

「他人の入った風呂は汚い」「なんでこんなトコで入らなあかんのや」との言葉があったそうです。また、Bさんにとってデイサービスは「居る理由がない」「居場所を感じられない」との思いをスタッフ間で共有し対応していく取り組みについて私たちも大変参考になり、共感するところが大きいありました。他事業所との情報の共有・交換を通じて成功例・失敗例など対応方法を検討する中で「その人」の姿がみえてきたとの感想がありました。最後に取り組みの中での示唆に富んだ気づきを述べられていたことを書き記しておきたいと思えます。

## 認知症学習会(施設・ショートステイ企画)

～在宅サービスから施設へ バトンをつなごう～

グループホーム安らぎ管理者 鋸屋 文代

### 「ご本人を支えるご家族に休息を」

西賀茂ショートステイより

ショートステイを利用する主な理由の一つとして、ご家族の休息・負担軽減を図る目的があります。しかしご家族にとって体は休息できても、施設に預けて無事で居るかどうか心配であり精神的な休息はなかなか得られ

にくいとよくお聞きします。

ショートステイの難しさとして、ご本人がショートステイの生活に慣れるまで3～5日がかかり、慣れた頃には退所であったり、利用者・家族との信頼関係の構築に時間がかかるなど報告されました。

ショートステイを利用されたご家族の話では「命の洗濯が出来ました。本当にありがとう・・・何回もトイレに行く主人に懲りず、今後も利用させて下さいね。」と涙ながらの言葉に在宅介護の厳しさと、ショートステイに向けられた期待と責任の重さに身が締る思いがしたとのことでした。

ショートステイの役割として、①ご家族が安心して心も体も休める質の高いケアの提供、②ご本人の自宅での様子や家族の要望の把握、③ADLの維持や事故防止、④他者との関係性やレクリエーションを通して「また来たい」と思える楽しい生活の提供、「家に帰りたい」という気持ちに寄り添う心のケア、⑤医療管理の必要な方へのケア等が挙げられます。

そのためにはご家族や他事業所からのご本人の日常生活の情報を得ることが重要であり、スタッフ間の情報の

共有とケアの統一が大切です。

### 「施設で始まったAさんと家族の暮らし」

小規模多機能施設「きたおおじ」より

Aさんは穏やかな印象で認知症により言葉が出にくく、思いを周囲に伝えることが困難で、身体的にも傾きがあり介護が必要な方でした。

ご家族は、入居されたAさんを大切に思われ入居前と変わらず接しておられました。情報シートやご家族からの情報をユニットスタッフで共有し、Aさんの思いやご家族の思いを日々のケアに活かし対応することにより、入居されてからのAさんの身体状態に変化がありました。熟睡出来るようになった、手引き歩行が出来るようになり、表情が生き生きとし、発語など意欲や活動量が増えるなど改善が見られるようになりました。

現在のAさんは職員が「目の前でAさんが感じている思いを読み取り、その思いに寄り添ったケアをしたことで、

Aさんらしく穏やかに過ごされています。」

発表後、参加して下さったご家族より「一人一人にこれだけ注目してもらっていることに驚き

ました。その人に合わせて本人を主役にサポートする介護職の方の連携に感謝しています。」とお言葉を頂きました。認知症になってもその人らしさが発揮され、生活が続い

ていくことを支えていく為にも、ご家族・他機関・地域との情報をつなげていくことの大切さを新たに認識させて頂きました。

会の終わりは全員で力強い一本メを行い、24年度の学習会を締めくくりました。



## 生活圏域事業所交流会

### H25年度企画について

生活圏域の介護保険事業所が集まり、いろんな話をしています。

今年度はテーマも昨年と同じ「認知症の方を地域で見守り支えるために・・・」です。『学び実践し、話し合い地域のみんなで少し前に進む』そんな一年を地域の事業所と地域の方と一緒に進めて行けたらと思っています。